

## VII 社会的活動

### 1. 【社会的活動への取組みについて】

(1) 当該短期大学の社会的活動への取組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、当該短期大学ではどのように考え、また今後どのように取組む予定かを記述。

地域的な高等教育への要望の中で開学し、その支援を受けながら成長をとげてきた本学にとって、本学の有する諸資源を地域社会に提供し、地域社会の発展、文化向上に資する努力は当然ながら求められていると考えている。また、「仁愛兼済」の建学の精神からも、「地域社会とのつながり」を意識する中で実践的な活動を行っていくことが必要と考えている。

本学の学生の95%が県内出身者であり、卒業生のほとんどが県内にとどまる現状からは、卒業後のアフターケアを含めた活動にも取組むことも、地域に立脚する本学の責務として把え、公開講座などを通して得られる現状からの情報は、各学科における教育研究にとっても有効なものと考えている。

具体的な活動の推進の仕組みとして、従前より各学科の保有する資源を社会に提供していくものとして、各学科にセンター組織を設け（生活文化研究センター・幼児教育研究センター・音楽教育研究センター）、その特性に応じた公開講座等の活動を行っている。

以下、各センター活動の概要等を示す。

#### (a) 生活文化研究センター

生活文化研究センターは、開かれた大学を目指す機関の一つとして昭和57年に生活科学学科（当時家政学科）内に開設され、その時2つの目標が示された。第1は正規の授業だけでなく、学生が問題を発見、解決するためにフィールドワークを実施する内容を取り入れること、第2は地域に生活文化に関わる情報を提供して、豊かな社会づくりの一翼を担うという目標である。それらを具体的に推進するために、当研究センターでは以下のような事業を実施してきた。

- (ア) 生活と環境セミナー（講演会：年1~2回実施）
- (イ) 生活文化講座（講習会：年3~4回実施）
- (ウ) リカレント講座（卒業生対象の講座：約10回実施）
- (エ) 講師派遣講座（外部の要請に応じて実施）
- (オ) 共催活動（仁愛保育園や福井県民間保育連盟の要請に対応して実施）
- (カ) 教授法の実践研究
- (キ) 広報活動（雑誌「生活と環境」の発行）

今後、これらの活動をさらに充実させることが当面の目標である。

#### (b) 幼児教育研究センター

昭和41年に本学に幼児教育学科（前身保育科、その後、児童教育学科幼児専攻、現在幼児教育学科）が発足して14年目を迎える昭和54年に、多数の卒業生が地域の幼児教育・

保育を担って活躍していたことから、その卒業生達の現職教育の場所として発足した。現在は本学の卒業生だけでなく、現場で働いている幼稚園教諭・保育士の現職研修を実施している。また、地域住民に対して幼児教育や子育てに関する知識・情報を提供することによって、健やかに子どもを生き育てられる社会づくりの一翼を担うということで以下のような事業を実施してきた。

1. 幼児教育の地域支援活動

①幼児教育公開講座

②幼児教育派遣講座

2. 本学卒業生のアフターケア事業の実施

①保育者ワークショップの開催

②保育者のためのパソコン講座

3. 機関誌『VISTA』の発行

今後、これらの活動をさらに充実させることが当面の目標である。

(c) 音楽教育研究センター

音楽教育研究センターは、地域の住民や音楽界に高い次元で貢献する教育研究機関として音楽学科内に平成4年に設置された。広く子どもから社会人までを対象に、当センターとしては下記の5つの分野に渡って活動を展開しているが、引き続き、本学科卒業生や地域の音楽指導者へのリカレント教育機関としての機能を担っていきたい。

①子どものための音楽教室

②ピアノ教育研究会

③声楽研究セミナー

④ディプロマコース

⑤ふくい仁愛音楽療法研究会

(2) 当該短期大学の社会人受け入れの状況については、既に《V学生支援》の「多様な学生に対する支援について」の記述例(2)で報告を受けているので、ここでは生涯学習の必要性が高まるなかで、当該短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述。

社会人の受け入れに関し、本科については「社会人入学試験制度」（学納金減免措置が付随）のほか、「科目等履修生」あるいは「研究生」としての入学制度を従前より設けている。社会人入学については、他の短大・大学等を終了した者が、「保育士」・「栄養士」・「音楽療法士」等の資格取得を目指して入学を希望する者がほとんどで、科目等履修生については、卒業後引き続いて免許等の不足単位の補充のケースがほとんどになっている。本科入学は、学修のための時間、経費負担も大きいため、教養的な、或いは知識補足的な生涯学習への対応としては、地域総合学科におけるユニット制などを参考にして、数科目をセットした科目等履修プログラムを提供していくなど、今後研究の余地があると思われる。

なお、各センターにおける公開講座等による社会人受け入れについては、以下のとおりである。

(a) 生活文化研究センター

開かれた大学を目指す機関として、センターの各事業には、積極的に社会人の受け入れをしたいと考えている。

(b) 幼児教育研究センター

開かれた大学を目指す機関として、当センターでは現職研修の充実と健やかに子どもを  
生み育てられる社会作りの一翼を担うために、幼児教育派遣講座などをさらに充実すると  
ともに地域の関係機関や行政機関と積極的に連携を進めていきたいと考えている。

(c) 音楽教育研究センター

「子どものための音楽教室」募集対象者年齢を、社会人一般、高齢者にまで広げ、地域の  
愛好者や指導者との連携によって社会人生涯学習（教育）の一翼を担う事を目指したいと  
考えている。

(3) 過去 3 ヶ年の当該短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正  
規授業の開放等の実施状況を記述。

以下、各センター別に記載する。なお、詳細については訪問調査の際に説明する。

(a) 生活文化研究センター

平成 15 年度	1. 生活と環境セミナー (2 セミナー実施) 2. 生活文化講座 (4 講座 5 回実施) 3. リカレント講座 (12 講座実施)
平成 16 年度	1. 生活と環境セミナー (1 セミナー実施) 2. 生活公開講座 (1 講座実施) 3. 生活文化講座 (3 講座実施) 4. リカレント講座 (17 講座実施)
平成 17 年度	1. 生活と環境セミナー (1 セミナー実施) 2. 生活公開講座 (生活科学学科と共催) 開学 40 周年記念行事:「食育のすすめ in Jin-ai」 講師 服部幸應氏 10 月 13 日 (木) 実施 (880 名) 3. 生活文化講座 (3 回実施) 4. リカレント講座 (16 講座実施)

(b) 幼児教育研究センター

平成 15 年度	1. 保育者ワークショップ (2 講座 4 回実施) 2. 幼児教育公開講座 (1 回実施) 3. 保育者のためのパソコン講座 (2 回実施) 4. 機関誌『VISTA27 号』の配布 5. 母と子の読書研究会 (5 回実施)
平成 16 年度	1. 保育者ワークショップ (3 講座 6 回実施) 2. 幼児教育公開講座 (1 回実施) 3. 保育者のためのパソコン講座 (4 回実施) 4. 機関誌『VISTA28 号』の配布
平成 17 年度	1. 保育者ワークショップ (3 講座 6 回実施) 2. 幼児教育公開講座 (1 回実施) 3. 保育者のためのパソコン講座 (4 回実施) 4. 機関誌『VISTA29 号』の配布

(c) 音楽教育研究センター

平成 15 年度	1. ピアノ教育研究会 (3 レッスン 14 回実施) 2. 声楽研究セミナー (2 セミナー16 回実施) 3. ディプロマコース (1 回実施) 4. 子どものための音楽教室 (2 コース 4 回実施)
平成 16 年度	1. ピアノ教育研究会 (3 レッスン 12 回実施) 2. 声楽研究セミナー (2 セミナー12 回実施) 3. ディプロマコース (1 回実施) 4. 子どものための音楽教室 (2 コース 4 回実施) 5. 音楽療法研究会 (4 回実施)
平成 17 年度	1. ピアノ教育研究会 (3 レッスン 11 回実施) 2. 声楽研究セミナー (4 セミナー16 回実施) 3. 子どものための音楽教室 (2 コース 4 回実施) 4. 音楽療法研究会 (4 回実施)

(4) 過去 3 ヶ年の当該短期大学と地域社会 (自治体、商工業、教育機関、その他団体等) との交流、連携等の活動について記述。

以下、各センター別に記載する。なお、詳細については訪問調査の際に説明する。

(a) 生活文化研究センター

福井県内各機関からの要請に応えるために、下記のとおり講師派遣事業と共催活動を実施した。

	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
講師派遣事業	7 講座実施。 うち、共催活動 1 回を含む。	6 講座実施。 うち、共催活動 1 回を含む。	5 講座実施。 うち、共催活動 1 回を含む。

(b) 幼児教育研究センター

	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度
幼児教育派遣講座	8 講座実施	14 講座実施	11 講座実施

(c) 音楽教育研究センター

平成 17 年度より、地域からの演奏依頼が多くなり、その要請に対応することになった。

- ①福井西武デパート定期コンサート (9 回実施)
- ②地域からの要請によるコンサート出演 (6 回実施)

\*平成 15 年度、平成 16 年度は特筆すべき活動はなかった。

## 2. 【学生の社会的活動について】

(1) 過去 3 ヶ年の学生による地域活動、地域貢献、あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述。

①参加人数及び件数

各学科、各サークルからのボランティアについての報告をまとめたのが下表である。活動件数としては年々増加傾向であるが、参加人数としては平成 16 年度が最も多くなって

いた。その要因としては、幼児教育学科が新潟県中越地震に伴う募金活動を行ったためだと考えられる（延べ約 212 名）。したがって、新潟県中越地震に伴う募金活動を除くと、件数・人数ともに 3 ヶ年を通して増加傾向と言える。

## ②活動団体

保育実習施設である障害者の施設や保育所、幼稚園から行事のためのボランティア要請が幼児教育学科に最も多く依頼があった。次いでダンスサークルや絵本サークルなどが平成 15 年度から継続して活動を展開していた。平成 15 年度では、活動団体が 3 団体であったのに対して、平成 16 年度では 5 団体、平成 17 年度に至っては 12 団体となっており、活動する団体も年々増加していることがわかった。

## ③活動内容

幼児教育学科の学生やボランティアサークルによる施設の行事への参加、本学図書館主催や絵本サークルによる絵本の読み聞かせ、ダンスサークルや書道・茶道サークルによるフェスティバルなど地域行事への参加・出演となっていた。

## ④活動場所

本学が福井市内にあることから、活動場所としては福井市が最も多く、次いで越前市、春江町などで福井県内での活動がほとんどであるが、石川県や富山県での活動もみられた。

## ⑤その他

平成 17 年 5 月 18 日に学生会が主体となって、全学生及び教職員が参加して、大学周辺の地域のごみ拾いを行う等クリーン大作戦を実施した。

〔サークル別及び学科別における過去 3 年間の社会活動参加状況〕

	平成 15 年度		平成 16 年度		平成 17 年度	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数
絵本サークル	2	26	2	16	3	36
折り紙研究会	-	-	-	-	1	7
絵本、折り紙研究会、ボランティア	-	-	1	60	-	-
献血推進	-	-	-	-	1	4
茶道	-	-	-	-	1	6
書道	-	-	1	7	1	8
ダンス	7	61	5	45	6	41
ボランティア	-	-	1	7	1	3
ボランティアサークル	-	-	-	-	4	57
ユネスコ	-	-	-	-	4	28
仁愛短期大学附属図書館	-	-	1	6	1	8
幼児教育学科	9	215	17	489	17	264
音楽学科	-	-	-	-	3	9
合計	18	302	28	630	40	453

(2) 当該短期大学では学生の地域活動、地域貢献、或いはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述。

本学学生における地域活動、地域貢献、ボランティア活動等については、年々参加件数や学生数が増えていることから、学生自身にとって様々な新しい発見を得ることができる場であり、意義ある活動だと評価し、今後も積極的に奨励していきたい。しかし、さら

に充実した活動を展開するためには、以下のような課題に対処していかなければならない。

#### ①学生への事前研修やフォローアップについて

ボランティアとして要請があった場合、参加学生への事前研修やフォローアップ、参加学生及び参加先による評価（アンケート）は、現在のところ実施していない。学生の主体性を大切にしつつも、事故や苦情の防止、参加学生や参加先にとって意義ある活動にするために、これらの実施の重要性は高いと考えられる。したがって、今後これらの実施の可能性や必要性について検討していきたい。

#### ②事故などに対する補償について

ボランティアとして社会参加した時に事故などがあった場合に、要請側の責任として捉えていくのか、学生自らの自己責任として捉えていくのかなどについて検討が必要である。また、参加学生及び参加先による活動に関する苦情等の受付についても窓口や処理方法について検討する必要がある。

#### ③ボランティア活動の窓口について

現在は、ボランティア要請を各学科・各サークルが窓口になって受け入れているが、上記の課題を解決するためには、特殊な場合を除いて、窓口の一本化を行い、検討資料を作成し、課題について全学で検討する必要がある。

### 3.【国際交流・協力への取組みについて】

(1) 当該短期大学の留学生の受け入れ状況については、既に《V学生支援》の「多様な学生に対する支援について」の記述例(1)で報告を受けているので、ここでは過去3ヶ年の在籍中の学生の海外教育機関への派遣（留学＜長期・短期＞を含む）の状況を記述。

過去3ヶ年の在籍中の学生の海外教育機関への派遣の状況は、次に示すとおり語学留学（短期）のみである。なお、留学希望者に関しては、関係教職員が相談に応じている。

＜語学留学（短期）＞

平成15年度 メディアコミュニケーションコース1名（ニュージーランド）

平成16年度 メディアコミュニケーションコース1名（中国）

平成17年度 なし

(2) 過去3ヶ年の当該短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述。

生活科学学科生活情報専攻メディアコミュニケーションコース(旧国際生活コース)では、昭和63年から平成13年まで姉妹校「米国カリフォルニア州グロスモント大学(Grossmont College)」へ短期語学研修として学生を派遣してきた。その数は347名に達した。しかし年々参加生徒数が減少してきたので、平成14年に語学研修の機会を生活情報専攻の情報管理コースの学生にも拡大し、訪問先を英国のケンブリッジ（「スタジオ・ケンブリッジ (Studio Cambridge)」）に変えた。その後グロスモント大学との交流は一部の教員との交流に止まっているが、学生の米国留学希望者にはグロスモント大学の International Program を紹介している。以下、グロスモント大学等との過去3ヶ年の交流状況を記す。

＜平成15年度＞

カリフォルニア山火事に伴うグロスモント大学被災者救援活動（平成15年11月10日

～12月24日)を展開し、学生、教職員、学生会、及び学校から計21.6万円の基金が集まった。その基金をグロスモント大学に送金したところ、この山火事で犠牲になった女子学生Cristy Seiler Davisを偲んで家族が起こした<Grossmont College Foundation>の基金に組み入れられた。

<平成16年度>

メディアコミュニケーションコースでの「マルチメディア演習Ⅰ」の中でグロスモント大学及びスタジオ・ケンブリッジのホームページの検索・調査の学習を行い、留学やイギリス研修の準備をした。

<平成17年度>

上記の活動の他に、グロスモント大学日本語コースの学生たちと本学のメディアコミュニケーションコースの学生とのネット上の授業共同参加の形態を検討し始めた。

その他、音楽学科では、平成17年度に県内経済界を通して「米国サウスカロライナ州クレムソン大学(Clemson University)」より相互交流の申し出があり、まずは教員同士の相互訪問による演奏交流をスタートに徐々に学生の交流へと発展させることが合意され、平成18年度より早速その作業を進めることになっており、学生の海外派遣の実現も近いと思っている。

### (3) 過去3ヶ年の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述。

音楽学科において、下表のような実績がある。

[音楽学科(15～17年度) 専任教員(作曲・理論担当)の実績]

年度	分野	内容	備考
15	作曲(現代音楽)	ロワイヨモン(フランス) 作曲セミナー参加	武生国際作家ワークショップとの 交換作曲家として参加(9/13～10/2)
17	作曲(現代音楽)	ストラスブール(フランス) 自作品演奏再現指導	3/25～30

## 4. 【特記事項について】

(1) この《Ⅶ社会的活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育など、社会的活動について努力していることがあれば記述。

各センターは、①各学科の学生の教育をさらに深めるとともに、卒業生の現任訓練の機会を提供すること、②地域住民に対して生涯教育の機会と最新の情報の提供など地域住民の豊かな生活づくりに一翼を担うこと、を目的として事業を展開し、それぞれに成果をあげている。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときは、その事由や事情を記述。

特になし。